

平成28年度第三回ユニット型特養運営推進会議

施設長

係長

主任

- ① 日時 平成28年9月13日(火) 14:00～15:00
- ② 場所 伯寿の郷 面談室
- ③ 参加者 川上冨子様、秦和男様、岡本早智雄様、永井清美様、小松原祐二様
仲佐施設長、谷上相談員
- ④ 書記 谷上

(内 容)

1.入所者代表より、入所の様子について話

仲佐施設長「川上さん、今の楽しみはなんでしょうか。」

川上様「歌を歌って楽しく遊んでもらって、とても元気に過ごしています。」

谷上相談員「昔、田植え歌を歌って田植えをしたとお話しされてましたよね。」

川上様「田植え歌？どんな歌だったかな？ああ、昔歌ってました。田植え～♪」

2.地域交流について

谷上相談員より、地域交流について報告を行う。赤屋地域で行う、健康教室・ミニデイへの職員派遣について、施設開放を目的にした地域交流について、認定こども園やすだとの交流について、夕涼み会について等について。

仲佐施設長「夕涼み会の報告がありましたが、近年参加人数が少なくなっているように感じます。小松原様、永井様の実感としていかがでしょうか。」

小松原様「もう少し祭りの宣伝があっても良いかと思っています。昔は手作りのポスター等の宣伝をしに交流センターに来られていたりしたもんです。そういえば、今回は交流センターには協力の相談がなかったですね。民生委員にはどうでしたか、永井さん。」

永井様「私のところにもなかったですね。」

秦様「健康教室報告書の写真に写っている写真は、どのような事をしている時の写真でしょうか。」

谷上相談員「ものまねジェスチャーゲームをした時の写真です。ただものまねをするだけでなく、動物のものまねをしながら、動作のものまねを同時にするなど、工夫をしたレクリエーションにしました。」

小松原様「地域教室についてですが、取り組みの目的に地域の方に施設を知っていただく事を目的にされているとのことですが、子ども達に知っていただく事が本当に必要でしょうか。取り組み自体が悪いわけではなく、職員の方の労力がかかっていないかと思って言っているわけですが。安田地域の方はイベントの参加があまり良くなく、敬老会を開催しても30名くらいしか参加されません。赤屋、井尻と比べて集落が幹線沿いにあり、普段からコミュニケーションがはかれているのかもしれませんが、また、気持ちが若いといったのもあるかと思います。」

谷上相談員「施設を知っていただく事だけを目的とすると、子ども達に知っていただくだけでは足りないかと思います。しかし、それ以外にも高齢者施設ですが、施設内に子どもが響くこともとても良い事だと感じています。本当は何もなくても遊びに来てもらえる事が一番良いかと思いますが、まずはこちらから仕掛けを作っていく事が大切と感じています。」

仲佐施設長「地域の方にたとえば、施設にお茶を飲みに来ていただくだけでも良いから、足を運んでいただけないかと思っています。そのようになるには、老人ホームの敷居はまだ高いなと感じています。」

3.内部研修について

内部研修について、谷上相談員より報告を行う。7月はクレーム接遇について、8月は外部研修に行った職員の復命研修について。

仲佐施設長「外部研修に行き、学んだ内容の浸透が職場内で出来ていないと感じています。このような取り組みを行う事は報告者、研修参加者双方に良いと感じています。」

小松原様「クレーム研修についてですが、クレームへの感謝ですか。なかなか凄いですね。」

谷上相談員「発想の転換だと思います。改善点を教えて頂いたことについての感謝と言う意味合いですかね。」

4.ケアプランについて

入所者のケアプランについて仲佐施設長より説明を行う。ユニット入所者のプランについて、24時間シートから導き出されたニーズをプランに載せ、目標立てを行っている。

小松原様「素晴らしいですね、何人の方にこのプランを立てているのですか。」

仲佐施設長「50名全員にプランを立てています。」

小松原様「全員ですか。しゃべれない方もおられると思いますが。」

谷上相談員「おっしゃるように、話す事ができない方も多く、その方の想いを引き出すことは難しいと感じています。」

その他

次回は11月15日(火)14:00～15:00